

第 34 回 私の思い出と当時の世相について

(2025 年 7 月 12 日)

今回は今までの内容とは違って、私の個人的体験と当時の世相をコラボして、「私の思い出と当時の世相について」と題して、お話ししたいと思います。多くの皆さんがまだ生まれていない時代から話が始まります。皆さんの人生の思い出と比べて読むと興味深く感じられるのではないのでしょうか。



大相撲蔵前国技館への社会見学

私が小学校 6 年生の時（昭和 30 年）です。昭和 30 年（1955 年）の大相撲の場所数は、初場所（1 月、東京）、春場所（3 月、大阪）、夏場所（5 月、東京）、秋場所（9 月、東京）の 4 場所でした。まだ、名古屋場所（7 月）と九州場所（11 月）はありませんでした。サンイを頂いた松登は秋場所後に初代・若の花と同時に大関に昇進いたしました。従って、昭和 30 年 10 月から翌年の 3 月の間に学校の社会見学の行事として、当時の蔵前国技館に「花相撲」（本場所以外に興業する相撲のことで、現在この名前はなくなりました）を見に行きました。私は、相撲はそっちのけにして国技館の中を歩き回りました。支度部屋の中にも入ることが出来、当時の大関松登からサインを貰いました。大関からもらったサインですので、みんなに自慢をしたものです。松登はアンコ型の力士で「寄り切り、押し出し、吊り」が得意だったと記憶しております。高砂一門の大山部屋に所属していました。引退後部屋を引き継ぎ、大山親方になりました。星甲という力士からもサインを貰いました。69 年前の思い出ですが、印象深い社会見学でしたので記憶に残っていたものだと思います。昭和 30 年（私の小 6 時代）頃は「朝鮮戦争特需」で日本経済も復興してきましたが、まだまだ戦争の傷跡も残っていた時代です。でも東京見物、小石川植物園、大森貝塚、おおみや市の大宮公園、千葉県稲毛での潮干狩り（私の小学校時代では、稲毛は遠浅の海岸で潮干狩りができた時代です）、筑波山などの遠足や社会見学がありました。また、夏休みの夜に小学校の校庭で映画の上映会もあり、納涼を兼ねてたくさんの方が見に来ておりました。街頭テレビが流行った時代でもありました。駅前広場などにテレビを備え

つけ、当時大人気のプロレス（力道山が活躍）などを放映し、観客が熱狂した時代でもあります（まだ一般の家庭ではテレビは普及しておりません）。日本はまだ貧しい国でしたが、今思えば、それなりに工夫して楽しいこともたくさんあったように思います。その一つが、蔵前国技館での「花相撲」が私の思い出の一つです。今でもテレビで大相撲は見ますが、たまに、当時の蔵前での「花相撲」のことを思い出します。

因みに、戦後まで残っていた両国「国技館」は大正 9 年（1920 年）に完成したドーム型洋風建築でモダンな建物でありました。戦後は GHQ（連合国最高司令官総司令部）に接收され、メモリアルホールとして使用されました。接收解除後、相撲協会より日本大学が購入し、「日大講堂」として使用され、プロレス、プロボクシング、コンサートなどにも会場を貸し出しておりました。私も大学時代にあるイベントを見に日大講堂に行ったことがあります。現在は商業施設になっているようです。相撲協会は蔵前に昭和 24 年（1949 年）に国技館の建設を始め、1950 年仮設のまま相撲興業を開始、昭和 29 年（1954 年）9 月に蔵前国技館が完成いたしました。従って、私が蔵前国技館で「花相撲」を見学したのは完成直後ということになります。後年（昭和 50 年ごろだと思います）、職場の同僚と 1 階の栈敷席で相撲を見たことがあります。相撲のことはあまり覚えておりませんが、国技館名物の「焼き鳥」の美味しかったことは今でも覚えております。蔵前国技館はなかなか風情のある 2 階建の和風建築でした。その後、昭和 60 年（1985 年）に現在の立派な「国技館」が両国に完成し、1 月場所から興業を始めました。両国の国技館にも 2 回行ったことがあります。ほとんどの皆さんにとっては分からなかったと思いますが、国技館にはこういう歴史があったわけです。

城ヶ島とポール・アンカと三種の神器

昭和 33 年（1958 年）、中学 3 年の 5 月か 6 月に遠足で城ヶ島と久里浜に貸し切りバスで行きました。当時は、城ヶ島大橋がまだない時代で、城ヶ島に行くには船に乗って行かねばなりませんでした。その時乗船した船は「ポンポン蒸気」と呼ばれる船でした。渡し舟に乗ったことは、この時が初めてで、船はかなり揺れた記憶があります。「ポンポン蒸気」とはあまり聞かない言葉ですので、67 年たっても覚えております。城ヶ島は、「雨は降る降る城ヶ島の磯に、利休鼠の雨が降る」と「城ヶ島の雨」にあるように遠足の日も雨でした。この歌の作詞は北原白秋、作曲は染田貞で、歌手は色々な人が歌っていましたが、私は藤山一郎と藤原義江が歌った「城ヶ島の雨」が好きです（藤原義江はレコーディング

しているかどうかは分かりませんが、テレビで、この歌を歌っているのを見たことがあります)。特に、藤原義江は「世界の藤原」と言われたテノール歌手です。藤原歌劇団の創始者でもありました。藤山一郎、藤原義江と言っても、皆さんはご存知ないでしょう。城ヶ島を後にして、久里浜にある「ペリー提督上陸記念碑」を見て、バスで帰宅いたしました。バスの中で、当時大人気のアメリカ人歌手ポール・アンカの「君は我が運命」"You are my Destiny" (1958 年) をみんなで歌ったことも、今でもよく覚えております。中学生が、この歌を英語で歌ったことは、いかにこの歌が日本で大ヒットしたかを物語っているのではないのでしょうか。ポール・アンカは「ダイアナ」"Diana" (1957 年) が大ヒットし、その後、「ロンリーボーイ」"Lonely Boy" (1959 年)、「電話でキス」"Kissin' On The Phone" (1961 年)などのヒット曲があります。私にとっては、ポール・アンカはアメリカの文化を日本に運んできた最初の人物です。

同時代のアメリカの人気歌手で、日本でも人気があった歌手にニール・セダカがいます。「おおキャロル」"Oh! Carol" (1959 年)、「カレンダー・ガール」"Calendar Girl" (1960 年)、「恋の片道切符」"One Way Ticket" (1960 年)、「すてきな 16 才」"Happy Birthday Sweet Sixteen" (1961 年)、「悲しき慕情」"Breaking Up Is Hard to Do" (1962 年)などは日本でも大ヒットいたしました。女性歌手としては、コニー・フランシスの「ヴァケーション」"Vacation" (1962 年)と「可愛いベイベー」"Pretty Little Baby" (1962 年)がヒットしました。これらの曲は、私にとっては懐かしい名曲ですが、皆さんにとっては新鮮な曲になるのではないのでしょうか。是非、一度 YouTube 等で聞いてみて下さい。楽しめますよ。

昭和 34 年・35 年頃、テレビ（白黒）が一般家庭にも普及してきました。アメリカの音楽と同時にアメリカのテレビ番組が日本のテレビでも放送されました。「名犬ラッシー」、「パパは何でも知っている」、「拳銃無宿」、「ローハイド」、「ララミー牧場」、「サンセット 77」などの番組が日本でも人気を得ました。こうして、この時期にアメリカの文化が大量に日本に入ってきたわけです。昭和 33 年 (1958 年) から 36 年 (1961 年) 頃が日本の社会が急速に変化していった時代で、私の青春時代でもありました。そして、電気冷蔵庫、電気洗濯機も一般家庭に普及し、テレビ、電気冷蔵庫、電気洗濯機の家電は当時「三種の神器」と呼ばれ、日本も文化的な生活が送れるようになりました。更に、郊外に団地が生まれ（松原団地もその一つです）、ダイニングキッチン (DK) が登場し、テーブルと椅子が使用されるようになり、ちゃぶ台の周りに座って食事をする生活文化がなくなっていった時代です。そして昭和 33 年 (1958 年) には第 3

回アジア大会が 5 月に東京で開催されましたが、戦後の初めての大きな国際スポーツ大会となりました。これが昭和 39 年（1964 年）の東京オリンピックに繋がっていくわけです。私の感覚では「戦後は終わったな」と思いました。日本は高度経済成長時代へと突入いたしました。こういうわけで、中学 3 年時の「城ヶ島」への遠足の昭和 33 年（1958 年）は、私にとっては忘れられない年となりました。これで、「城ヶ島、ポール・アンカ、三種の神器」の意味がわかりましたね。

（次回は「後編」で 8 月下旬を予定しております）